

まわりみち

2024 June no.17



-Contents-

塾長の活活算数講座

活ママの教えてください？ 算数編

活塾草紙こどもと落語『出来心』



まわりみち 松江算数活塾通信 6月上期号
2024年6月1日発行 vol.17(毎月2回発行)

発行・編集／松江算数活塾
〒690-0883 松江市北田町82-4
TEL 0852-67-8005 <https://katsujuku.net>

こんな泥棒話をいくつも聞いてみると、江戸や明治の昔は悠長なものよ、気楽な泥棒稼業が成り立っていたのだから、などと思ってしまうのですが、もちろん落語世界での話。庶民が夢想した究極の平和社会というファンタジーの中で棲息している人物です。「十両(今の貨幣価値で百万円程度)盗めば死罪」「一度盗めば敲き、二度盗めば入れ墨、三度盗めば死罪」という重い刑罰が科せられていたのがリアル江戸社会です。人情噺の傑作「芝浜」では、財布をネコババしようとした夫を妻が必死で守る噺ですが、露見したら重罪に問われると恐れおののくあの感覚が現実になかったのだらうと思います。

ファンタジーなら徹底的にファンタジーであるべきで、落語の泥棒さんたちは、長い年月をかけて妖精みたいに造形されていたのでしょうか。それゆえに聞いている側は、安心して楽しめるのです。

泥棒とは少し違いますが、詐欺師、ペテン師も落語には出てきます。「鰻(うなぎ)の替間(た

いこ)」という噺があつて、替間(たいこもち)の一八が「どこかで見たような男」を一生懸命ヨイショして飲食にありつこうとするのですが、だまされて払わされてしまいます。私は、昔からどうもこの噺が好きになれません。落語会に出かけて、この噺がかかると残念な気持ちになります。ずつとどうしてだろうかと考えていたのですが、一八をだます男のリアルさにあるのだと思います。妖精とは真逆の、腹の中ではまったく違うことを考えている人間のリアルな悪意。まあ、こんな写実的な噺も生き続けているってところが落語のすごさとも言えるのでしようけれど。

(宮森健次)

編集後記

今月後半から、東奥谷教室は改修工事に入ります。工事終了は年末の予定です。その間、落語教室の稽古は、できるところを求めて転々とすることになりそうですが、それもまた稽古のうちとご寛願願います。(M)

松江算数活塾ご案内



◀ <https://katsujuku.net>



◀ 算数・落語スケジュール



◀ Instagram

しまね起業家スクール

しまね産業振興財団にしまね起業家スクールという公的なビジネススクールがあります。私は二年前そこを修了しました。

同期は三〇名ほど。退路を断つてスクールに入学した若者もいます。彼らに交じって勉強するうちに、「六五才まで学級担任を張る」と宣言していた私の気持ちは揺らぎ始めました。このまま惰性で再任用として生きていつていいのかと考えるようになりました。

同期の中には、環境問題や人権問題に、鋭く深く切り込もうとする人がいて、大いに触発さ

れました。

島根県の学力問題、特に小学校算数は、全国学力・学習状況調査において、全国ワースト3が指定席のようになっています。去年、丸山知事からは「江戸時代の寺子屋よりも結果が出てない」というコメントが飛び出しました。これは、国の教育施策に向けられたものです。島根県の現状は特に深刻です。県が採択している学力調査では、平均より一〇点上回っていても東京の平均以下、という現状から脱却が図られています。これに目を背けて人生を終

えていいのかと思いました。

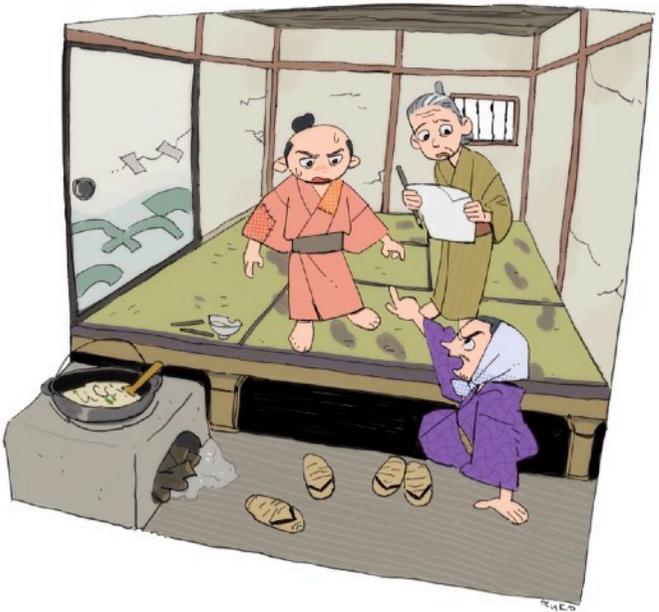
しかし今、思考力を発揮し、楽しみながら活用問題に取り組める子どもが目の前に確実に育っています。この子どもたちと共に、学力問題に迫ります。しまね起業家スクール第二十五期は、六月八日に始まります。およそ半年間のスクーリングでは、夢、希望、期待よりも、現実、不安、無知を思い知らされます。そんな後輩の光となるべく、学力問題の、ど真ん中を見据えて事業を進めていこうと思います。

おかげさまで、もうすぐ一年です。

(川上宜久)

出来心

活塾草紙 こどもと落語 その拾壹



落語には、泥棒が出てくる話がたくさんあります。「泥棒話」というジャンルがあるぐらいです。泥棒話は縁起が良いとされているので、高座でもよくかかります。タヌキの縁起の良さというのはまだ分かるのですが、泥棒はいつたいたいどうしてそういうことになるのか。どうも「お客さんの懐をねらう」という物騒かつ謎かけめいた連想からのようです。かなりの無理筋ですが、シャレや冗談で成り立っている文化なので、固いことは抜きにするよりしようがありません。

泥棒話の登場人物は、落語世界きつてのぼんやりした人たちなので、盗みに入ったはずが逆に巻き上げられたり、けんかの仲裁をするはめになったり、泥棒の仕事を完遂する例は皆無です。当塾落語教室生に泥棒話を持ちネタにしている児童がおりますが、これも典型的なダメダメぶり。あまりの不出来ゆえに親分からクビを言い渡されますが、あと一回だけチャレンジさせてほしいと頼み込みます。親分は情は解するもののぼんやりについては負けず劣らずですから、適当な家に盗みに入らせませす。そこで起きるドタバタが無性におもしろい。